

【中学校-社会科(公民的分野)②】

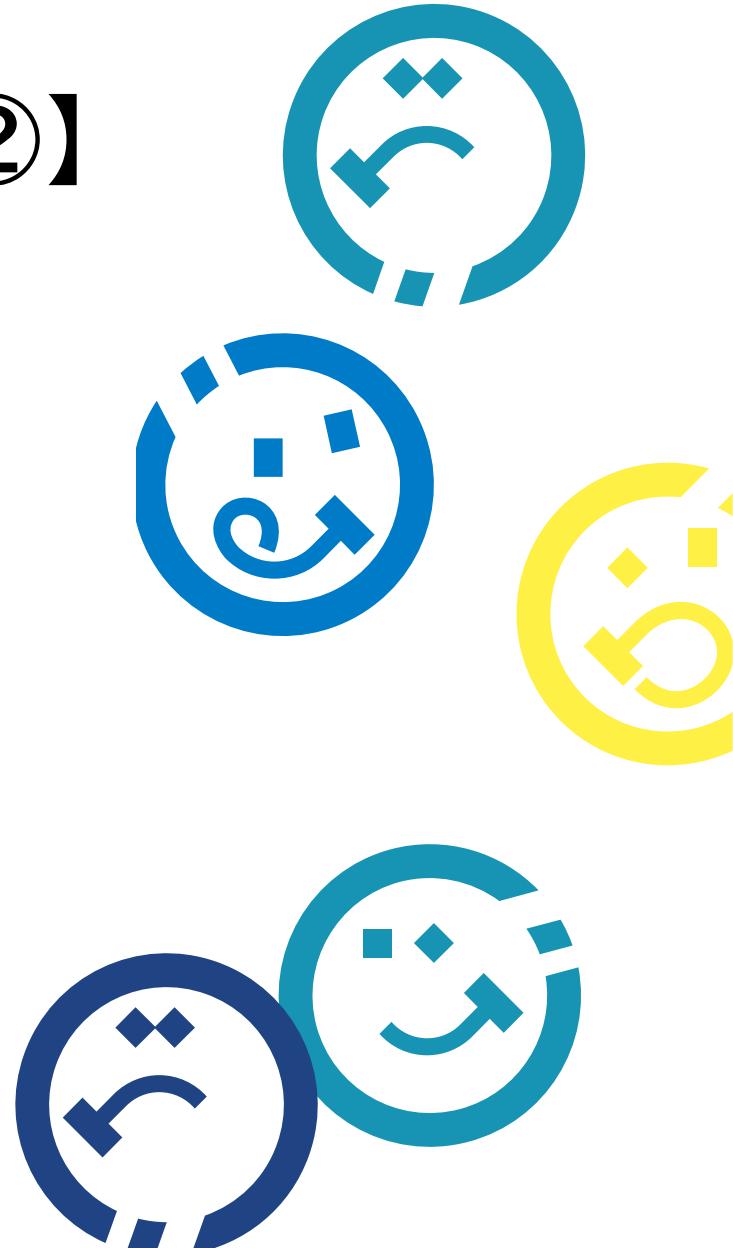
～大人になる前に

知っておきたいお金の話② 金融の仕組みと資産管理～ (スライド構成例)

<講師のみなさまへ>

◆本資料は、「J-FLEC『標準講義資料』による授業実践のための学習指導案」をもとに作成したスライド構成例です(全2回の連続講義の実施を想定しています)。

◆実際の講義資料を作成される際は、「J-FLECのご紹介」スライドを必ず追加し、ご説明を行ってください(連続講義を実施される場合、全体を通じて1回ご説明ください)。



目次

1

1

【はじめに】
金融リテラシー
ってなに？

2

【使う】
生活設計
(ライフプランニング)

3

【使う】
家計管理
と決済

4

【貯める・増やす】
資産形成
の基本

5

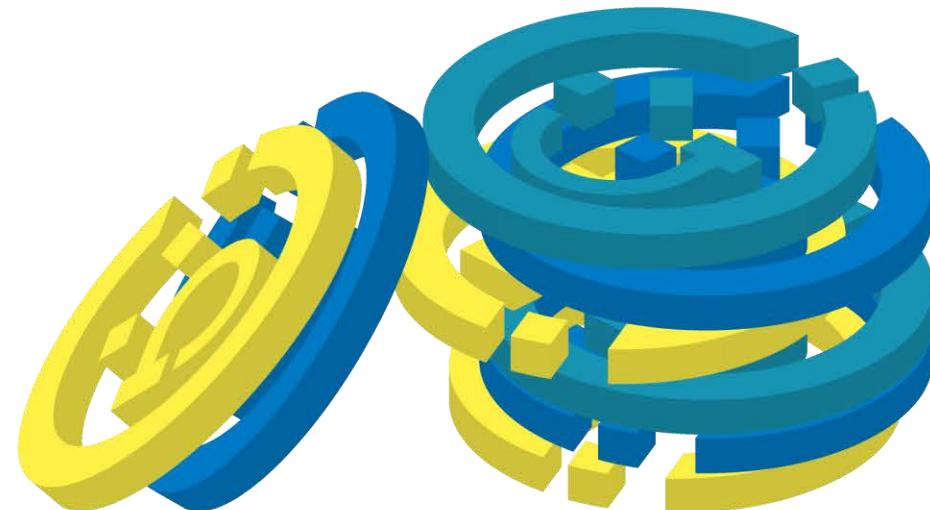
【備える】
保険
の仕組み

6

【借りる】
ローン・
クレジット

7

【注意】
金融トラブル



1 【貯める・増やす】

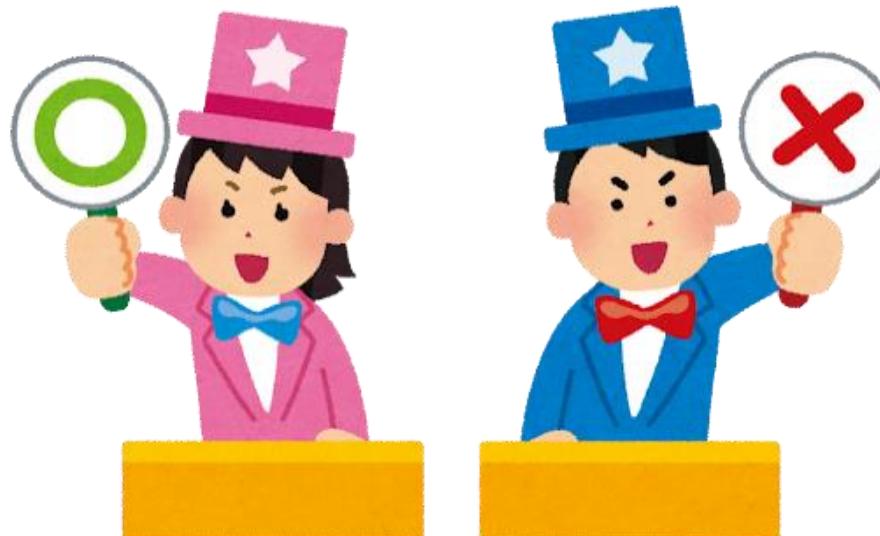
資産形成の基本

クイズ



お金が貯まりやすいのはどっちでしょう？

- ①毎月、お小遣いが残つたら貯金をする
- ②お小遣いをもらつたら、使う前に貯金をする



答え

②お小遣いをもらったら、使う前に貯金をする

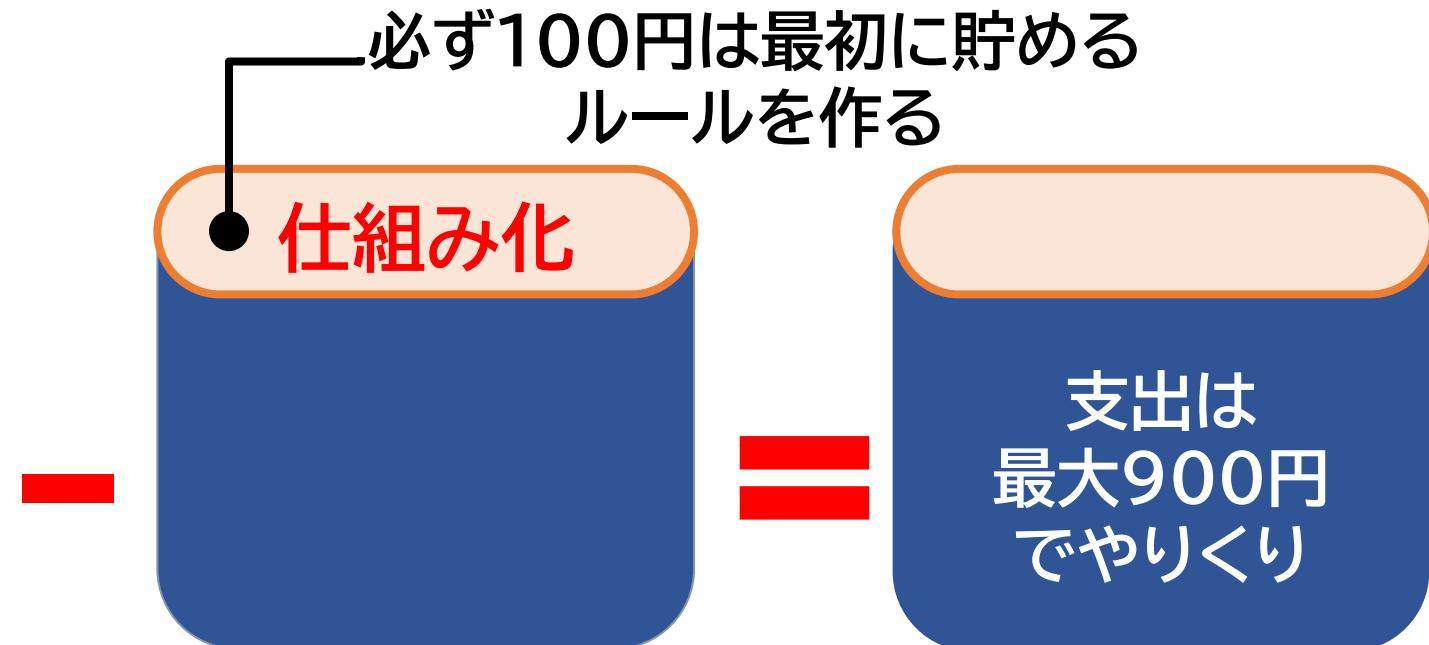
毎月残ったお金を貯めていく方法だと、
人間の心理的に目の前にあるお金を使ってしまいやすく、
思ったようにお金を貯めるのは難しいと言われています。
「毎月500円を貯金する」「お年玉の半分は貯金する」など、
ルールを決めるとお金が貯まりやすくなります！



- 例えば、お小遣いやお年玉をもらったら、自分でルールを決め、『最初にその一部を貯める』ようにしてみましょう。自分にとって無理のない金額で始めてみると、続きやすくなります。
- 大人になったら、『投資』などの方法も検討してみましょう。
- 工夫してお金を貯める・増やすことを『資産形成』といいます。

例えば…

お小遣い
1,000円



- 預貯金や投資では、『**単利**』と『**複利**』という考え方があります。
 - **単利**:元本のみに利息がつく計算方法
 - **複利**:**元本と利息を合わせた額**に利息がつく計算方法

100万円を利率5%で運用する場合(税金等は考えない)

単利の場合

1年後: $100\text{万円} + 100\text{万円} \times 5\% = 105\text{万円}$

2年後: $105\text{万円} + (100\text{万円} \times 5\%) = 110\text{万円}$

複利の場合

1年後: $100\text{万円} + 100\text{万円} \times 5\% = 105\text{万円}$

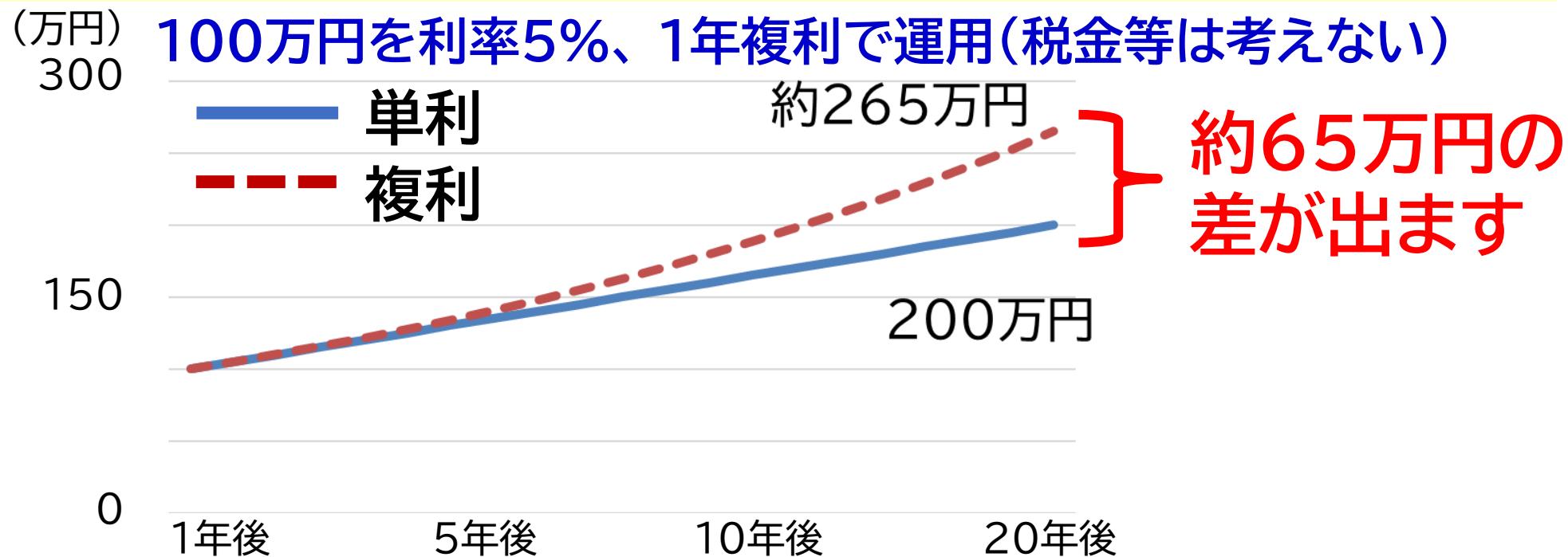
2年後: $105\text{万円} + (105\text{万円} \times 5\%) = 110\text{万}2500\text{円}$

複利の場合は元本の100万円だけではなく、利息の5万円にも利息がつくため、より多く資産が増えることになります。

○『単利と複利では長期間で考えると大きな差』が出ます。

－単利：元本のみに利息がつく計算方法

－複利：元本と利息を合わせた額に利息がつく計算方法



複利の効果を得るためにも、資産形成は長い時間コツコツ続けていくことが重要です。

1. (1) お金を貯めたり、増やしたりするための考え方を「仕組み化」と「複利」を使ってまとめよう。

J-FLEC ① お金を貯める・増やすには？

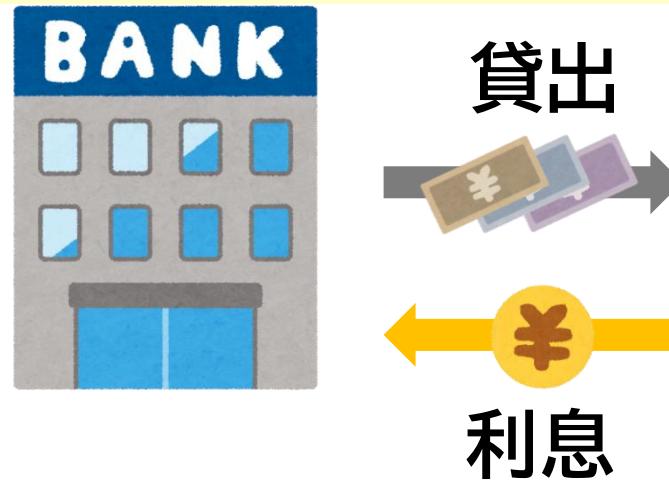
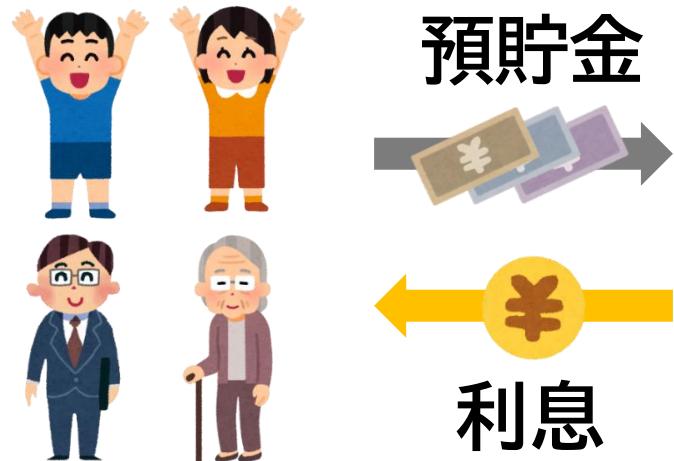
5

- 例えば、お小遣いやお年玉をもらったら、自分でルールを決め、『最初にその一部を貯める』ようにしてみましょう。自分にとって無理のない金額で始めてみると、続きやすくなります。
- 大人になったら、『投資』などの方法も検討してみましょう。
- 工夫してお金を貯める・増やすことを『資産形成』といいます。

例えば…



- 皆さんがあんまり儲けたいから銀行などに『預貯金』をすると、その預けたお金はお金が必要な人や会社に『貸出』されます。
- 銀行などからお金を借りた人や会社は、お金を借りたお礼として銀行などに『利息』を払い、その一部が預貯金をした人に渡されます。



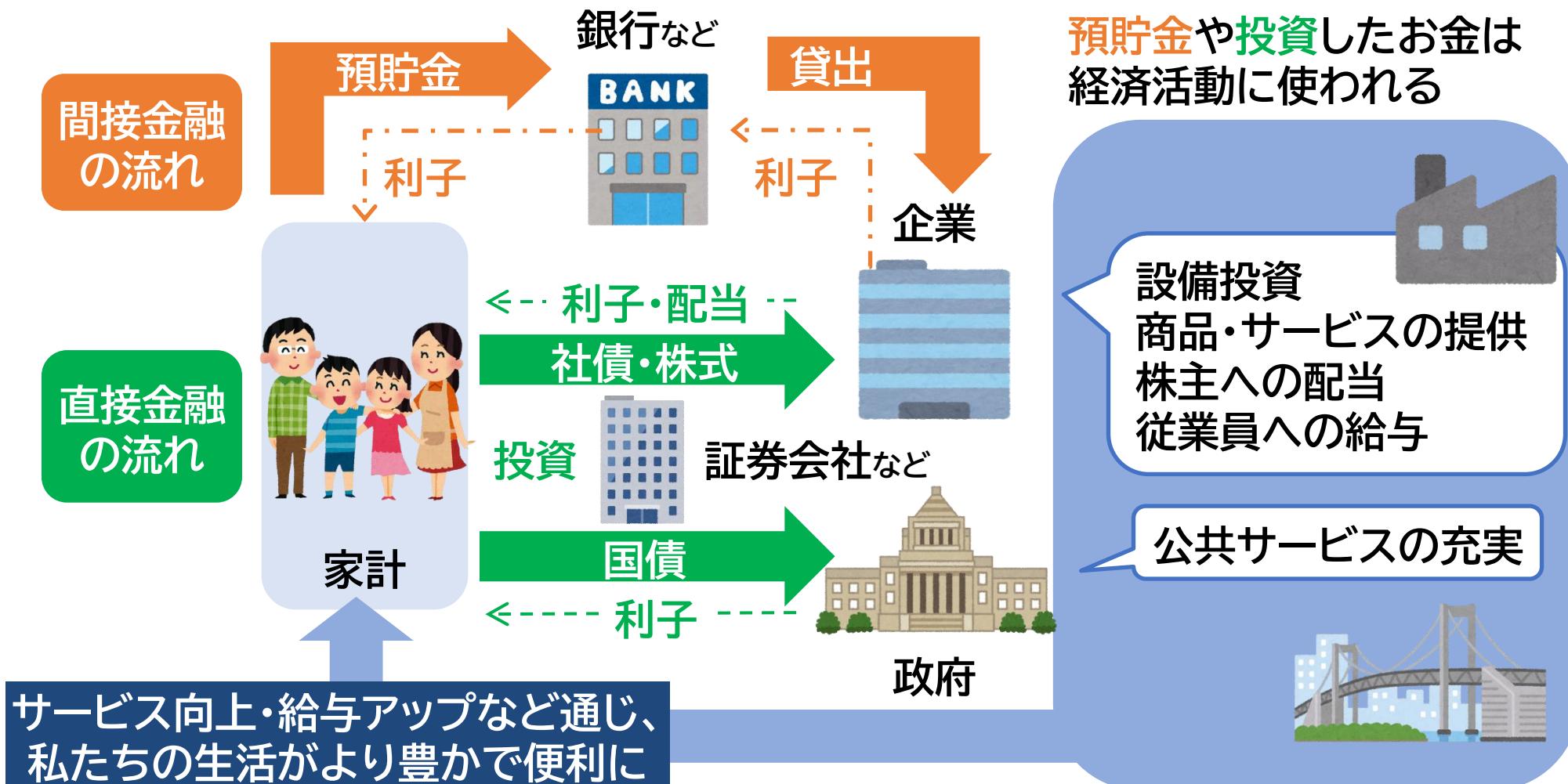
誰にお金を貸すかは預貯金をした皆さんではなく、銀行などが決めます。皆さんのが、お金が必要な人や会社に間接的にお金を貸すことになるので、このような仕組みを『間接金融』といいます。

- 預貯金と違い、お金を必要とする相手に直接お金を提供する方法があります。
- この時、お金を提供する人を『投資家』といい、代表的な投資の商品として、『株式』や『債券』があります。



預貯金と違い、投資家は自分でどこの会社に投資をするか選び、直接お金を提供するので、このような仕組みを『直接金融』といいます。

○資産形成(預貯金・投資)は、『経済活動を支える』ことで、消費(商品の購入)と相まって『経済を循環』させています。



○消費や投資・寄付等を通じて、『社会課題の解決やSDGsに貢献する』ことができます。

SDGsとは

「持続可能な世界を実現する」ことを目指して、国連サミットで採択された国際目標。貧困や飢餓、保健、教育、ジェンダー、環境、生産、雇用など、幅広く17のゴール・169のターゲットから構成される。



商品の購入
投資・寄付



SDGsに取り組む企業

⇒ 消費(商品の購入)や投資(債券・株式などの購入)、寄付(クラウドファンディング等による被災地などへの寄付)等による資金提供を通じて、社会をより良くすることに貢献できます。

1. (2)スライド12および13を学んで、適切な資産形成をすることの意義をまとめよう。

J-FLEC ① 投資を通じて社会課題の解決に貢献

12

○消費や投資・寄付等を通じて、『社会課題の解決やSDGsに貢献する』ことができます。

SDGsとは

「持続可能な世界を実現する」ことを目指して、国連サミットで採択された国際目標。貧困や飢餓、保健、教育、ジェンダー、環境、生産、雇用など、幅広く17のゴール・169のターゲットから構成される。



⇒ 消費(商品の購入)や投資(債券・株式などの購入)、寄付(クラウドファンディング等による被災地などへの寄付)等による資金提供を通じて、社会をより良くすることに貢献できます。

- 金融商品による資産形成の方法としては、「預貯金」と「投資」があり、『**目的に応じた金融商品を選択**』することが重要です。

預貯金



- ◆ 貯めることを重視
- ◆ 元本保証等確実性を重視
- ◆ 運用成果(結果)は商品選択時に決まっている

投資



- ◆ 増やすことを重視
- ◆ 元本保証はない
- ◆ 運用成果(結果)は商品選択時に決まっていない

主な金融商品

普通預貯金

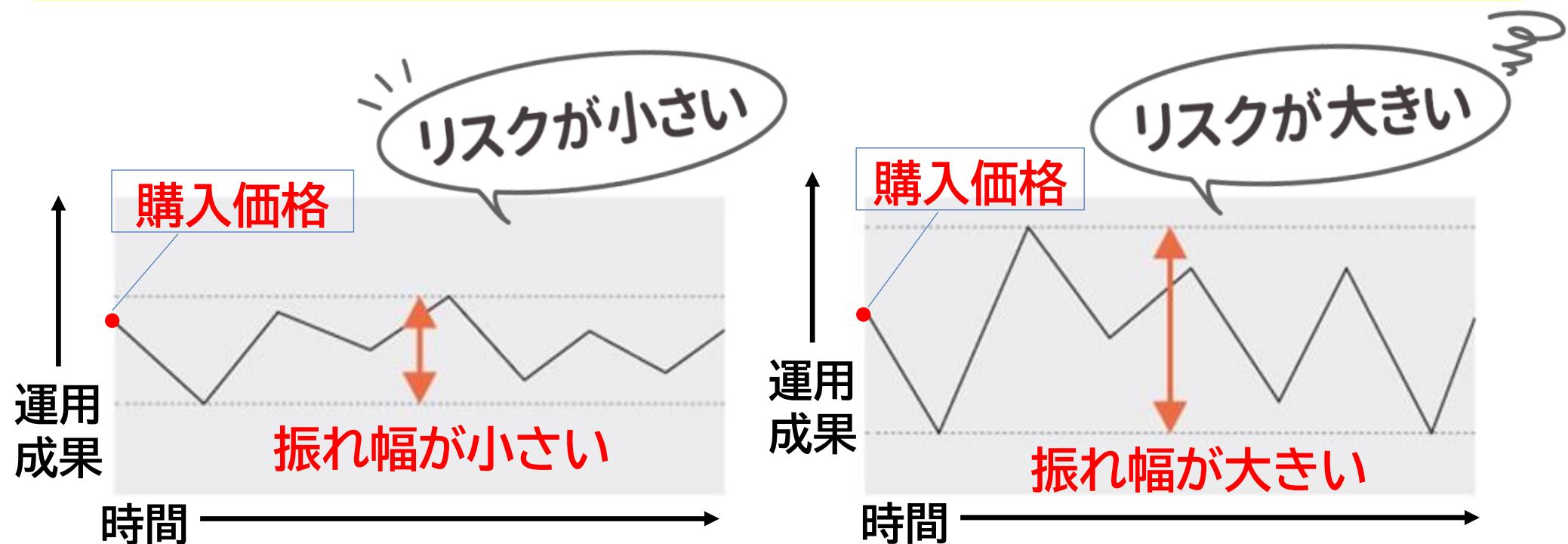
定期預貯金

積立定期預貯金

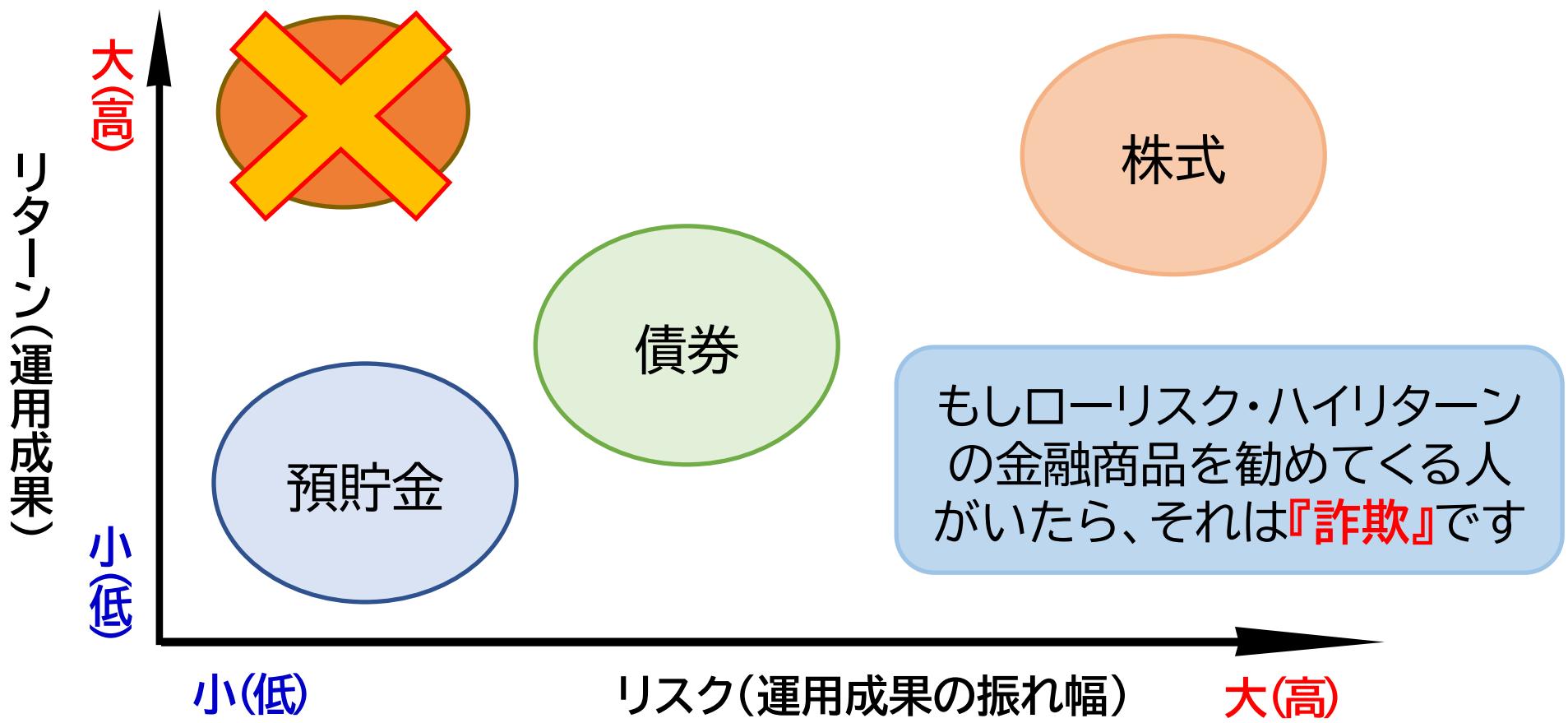
株式

債券(国債・社債など)

- 資産運用におけるリスクとは『運用成果の振れ幅』のことを指します。「リスクが大きい」とは、「とても危険」という意味ではなく、「大きく儲かるかもしれないし、大きく損をするかもしれない」(運用成果の振れ幅・不確実性が大きい)という意味です。
- 『保険で備えるリスク(危険)』とは意味が異なります。



- 原則、リスク(運用成果の振れ幅)とリターン(運用成果)は比例関係なので、『ローリスク・ハイリターンの金融商品はありません』。

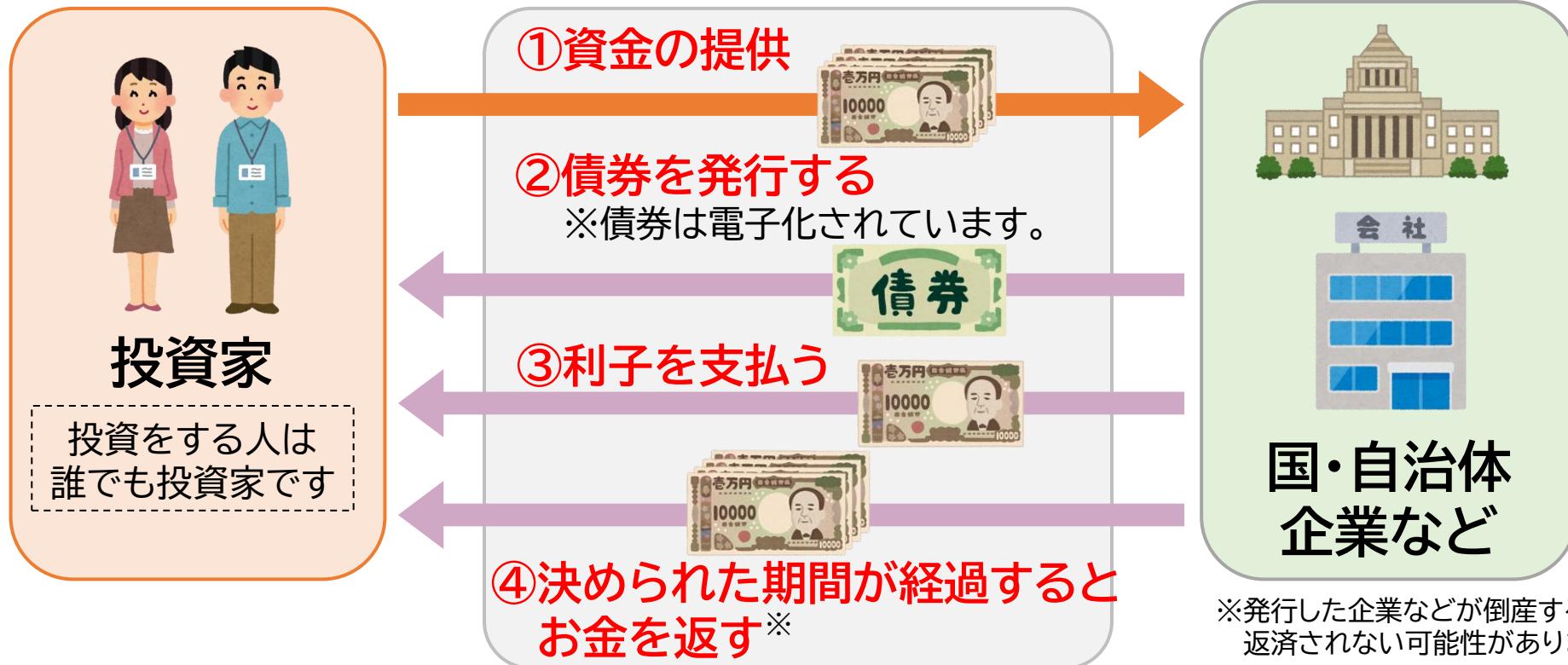


※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。

- 『株式』とは、お金を出して応援してくれた投資家に対して、会社が証明として発行するものです。
- 株式投資は、一般的にリスク・リターンともに大きくなります(ハイリスク・ハイリターン)。



- 債券とは、国・自治体や企業が、投資家からお金を借りるために発行する『信用証書のようなもの』です。
- 債券投資は、リスクは小さくリターンも小さめですが、基本的に安全性は高めです(ローリスク・ローリターン)。

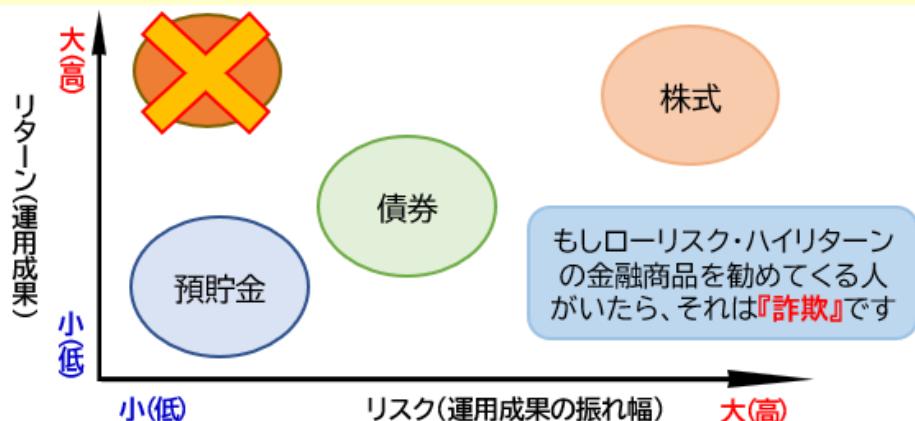


1. (3)リスクとリターンの考え方から「闇バイト」を説明してみよう。

J-FLEC ① リスクとリターンの関係

16

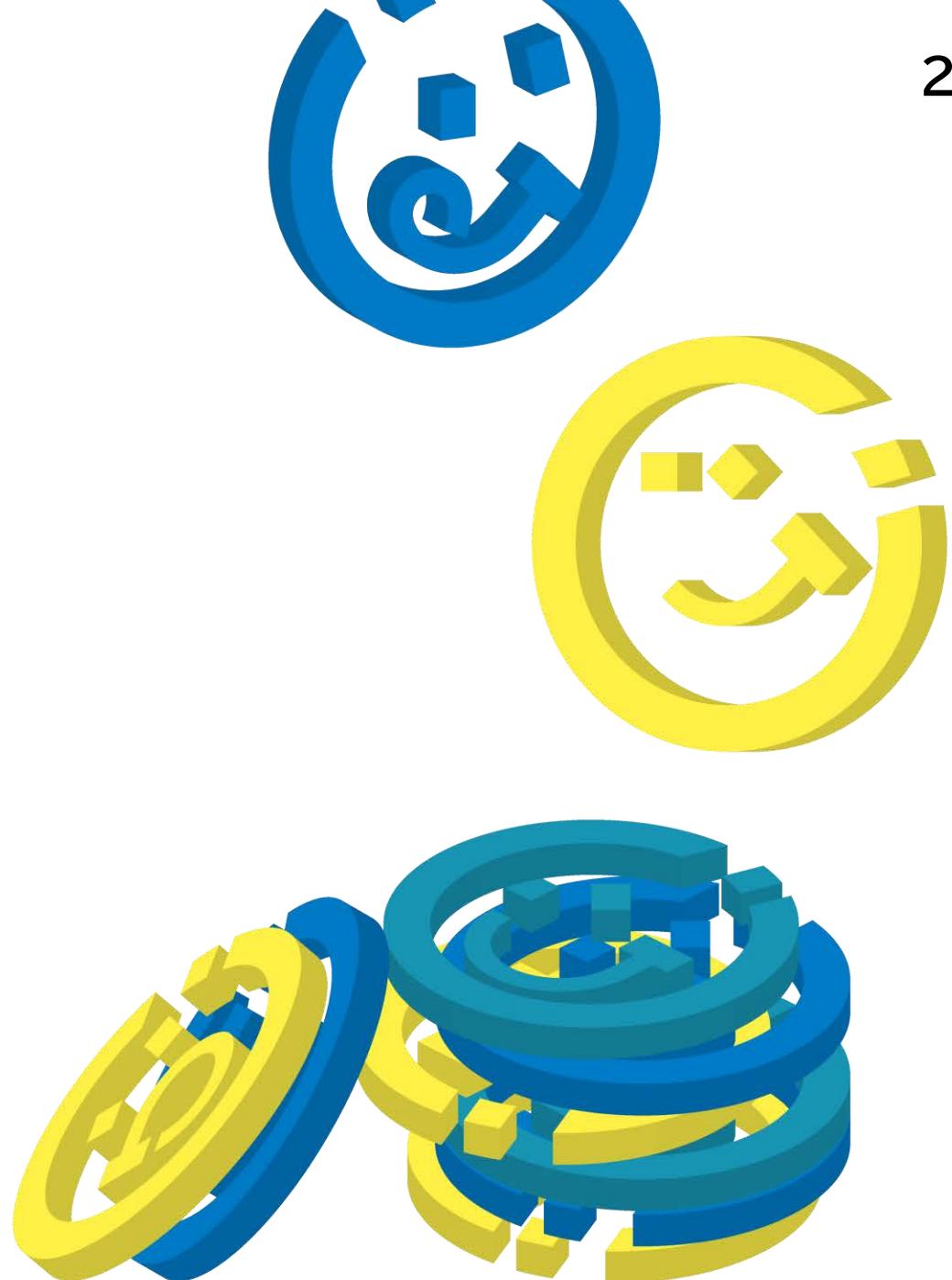
- 原則、リスク(運用成果の振れ幅)とリターン(運用成果)は比例関係なので、『ローリスク・ハイリターンの金融商品はありません』。



※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。

② 【備える】

保険の仕組み



クイズ



実際にある保険はどれ？

- ① ペットの病気やケガの治療費を補償する保険
- ② 自転車で事故が起きたときのケガの治療費や被害者への賠償金を補償する保険
- ③ 旅行先が雨だったら旅行代金が戻ってくる保険
- ④ ライブに行けなくなってしまった時にチケット代が戻ってくる保険



答え

①～④全て

保険には、人生の様々なリスクを補償してくれる商品があります。
①ペットの病気やケガ②自転車での事故といったものだけでなく、
③旅行先が雨だった時や④ライブに行けなくなってしまった時に
補償を受けられるような商品も存在します。



- 人生には『様々なリスク(危険)』が存在します。
- リスクに対して、『どのように備えればよい』でしょうか。

例えば、



ケガをした



病気になつた



家が火事にあつた



地震で家が壊れた



交通事故を起こした



人の物を壊してしまった



介護が必要になつた



親など家計を支えていた人が亡くなつた



自転車を運転していて
事故を起こしてしまった

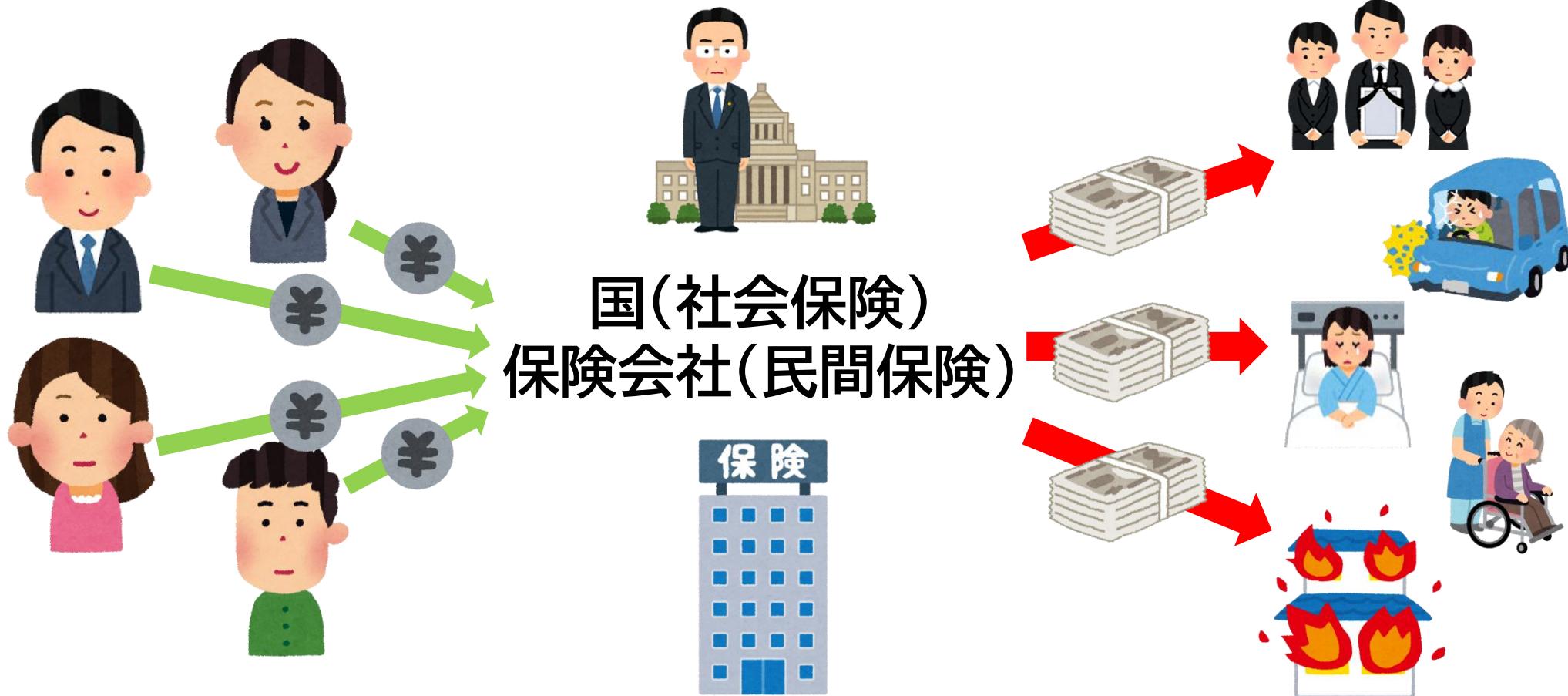


人の物を壊してしまった

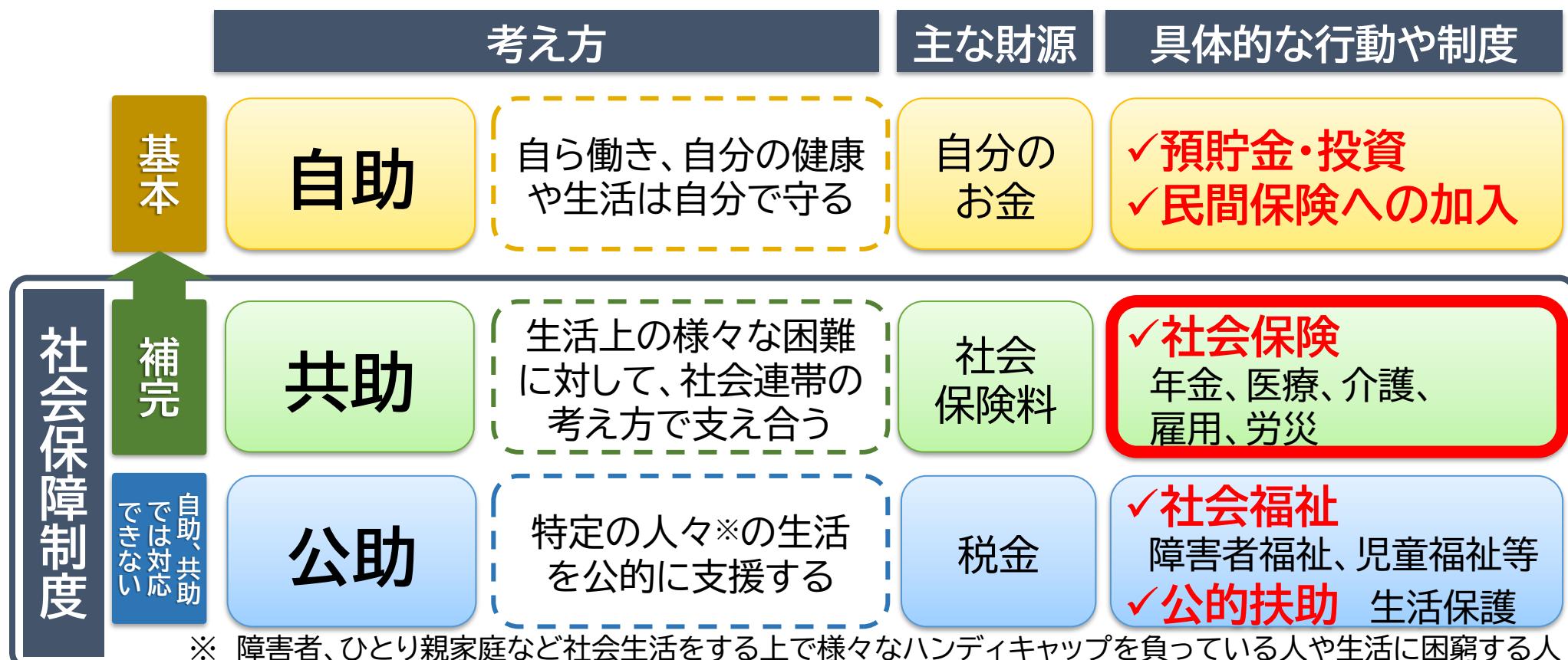
小学生の起こした自転車事故で、被害者へ9500万円
支払わなくてはいけなかったケースもあります。

人の物を壊してしまった時は、沢山のお金を請求されることがあります。
すぐに保護者の人等に相談しましょう。

- 様々なリスクに備え、みんなで少しずつお金(=保険料)を出し合って、万一の際にまとまったお金(=保険金)が支払われるという仕組みが『保険』です。



- 日本の福祉社会は、『①自助(個々人の努力)、②共助(社会保険)、③公助(社会福祉等)の適切な組み合わせ』によって形づくられています。



2.なぜ、保険は必要とされるかについて説明してみよう。

J-FLEC ②j 生活の中のリスクを理解しよう

23

- 人生には『様々なリスク(危険)』が存在します。
- リスクに対して、『どのように備えればよい』でしょうか。

例えば、



ケガをした



病気になつた



家が火事にあつた



地震で家が壊れた



交通事故を起こした



人の物を壊してしまつた



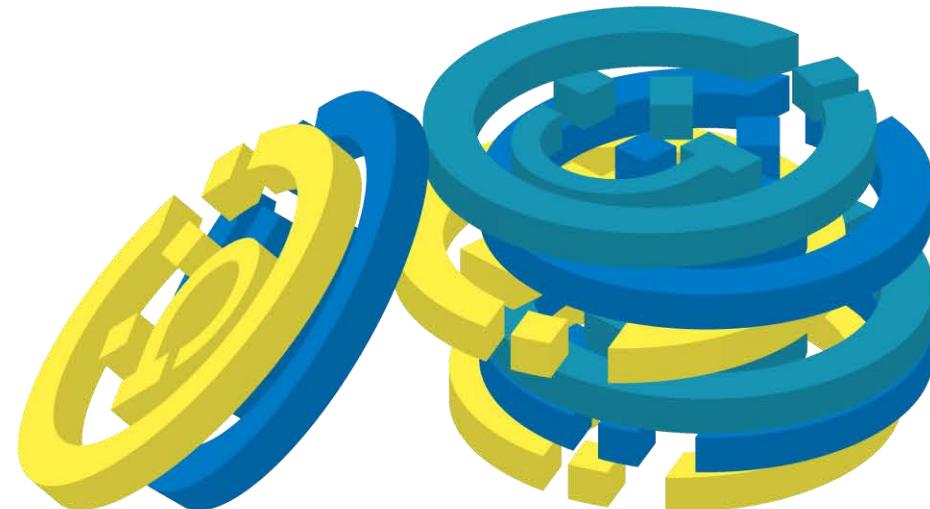
介護が必要になつた



親など家計を支えていた人が亡くなつた

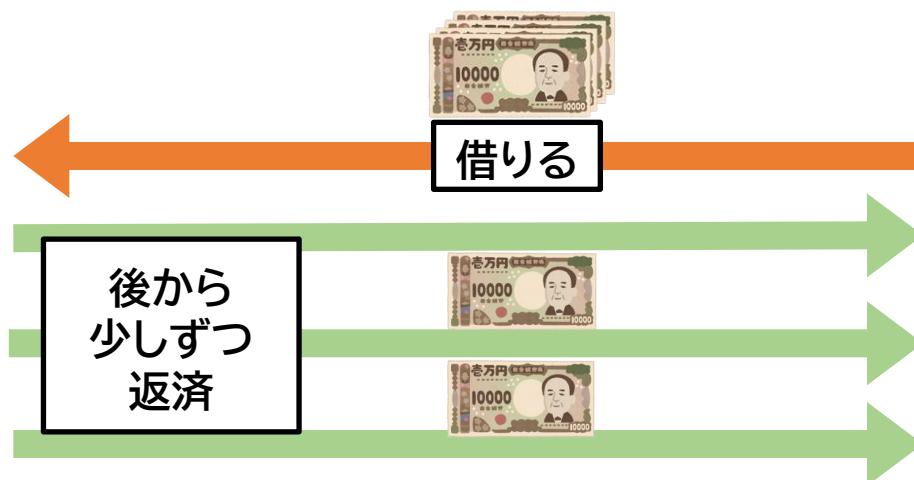
③【借りる】

ローン・クレジット



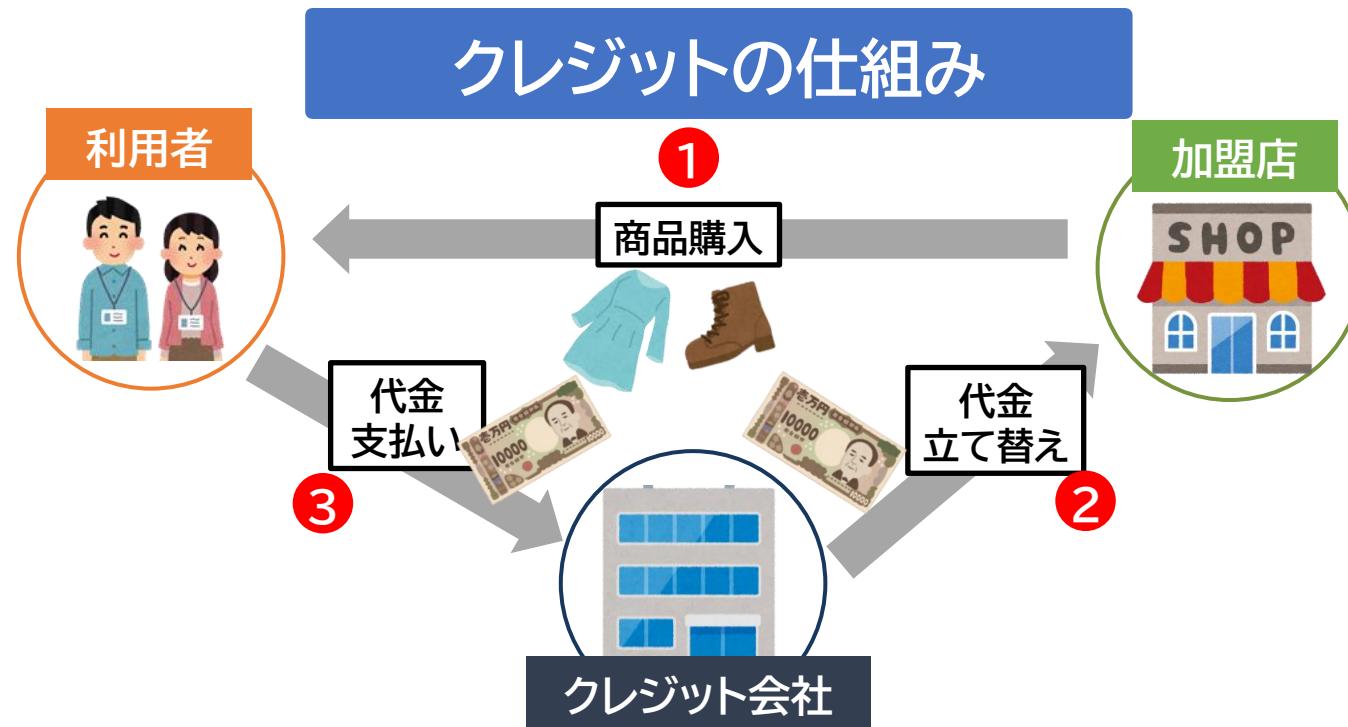
- ローンとは、住宅や自動車など、『お金を一度に用意するのが難しい買い物をする場合に、金融機関からお金を借りて、後から少しずつ支払う約束』のことです。

ローンの仕組み



住宅・自動車などの高額な買い物で後から少しずつ返済。

- クレジットとは、『商品などを買った時点では代金を支払わず、後から支払う約束』のことです。
- 大半は『クレジットカード』での利用になります。



ローンとクレジットは、仕組みは違いますが、どちらも『後で返済(支払い)が必要な借入れ(借金)』です。

- お金の貸し借りには『利子・金利』がかかります。
- シミュレーション等で月々の返済額などを確認したうえで、『計画的に利用』しましょう。

利子(利息)

借りたり貸したりしたお金に、一定の割合で支払われる対価(お金)です。

金利(利率)

お金を貸したり借りたりする時の「値段」です。

元本に占める利子の割合(%)で表示されます。

利息の計算式

利息は下の式で計算できます。

$$\text{元金} \times \text{金利} \times \text{借入れ期間} = \text{利息の総額}$$

10万円を年利15%で1年借りると?

$$10\text{万円} \times 15\% \times 1\text{年} = 1\text{万}5,000\text{円}$$

※実際にお金を借りたときの返済金額とは異なります。

○ ローンを利用するときは以下の点に注意しましょう。

- お金を借りたら利息をつけて返さなくてはいけない。
『返済期間が長くなるほど利息を含めた支払額は大きくなる』。
- 金利は経済状況や個人の信用度、使い道などによって変わる。
→『自分が返せる範囲でお金を借りることが重要』。
- 支払いの遅延などで、「信用度」がさがると、他のローンが組めなくなったり、クレジットカードが作れなくなったりする。



特に住宅ローンや自動車ローンは利用する人も多くなりますが、
『ローンは借金であるという意識』を持ち、計画的に利用しましょう。

- クレジットカードには「ショッピング機能」と「キャッシング機能」があります。
- 支払い方を選べ、『リボ払い(リボルビング払い)・分割払いには手数料がかかるため、総支払金額が大きくなります』。

使える機能

- ショッピング機能
購入代金の立て替え・後払い
- キャッシング機能
現金の借り入れ

支払い方

1回払い



ボーナス一括払い



リボ払い



分割払い

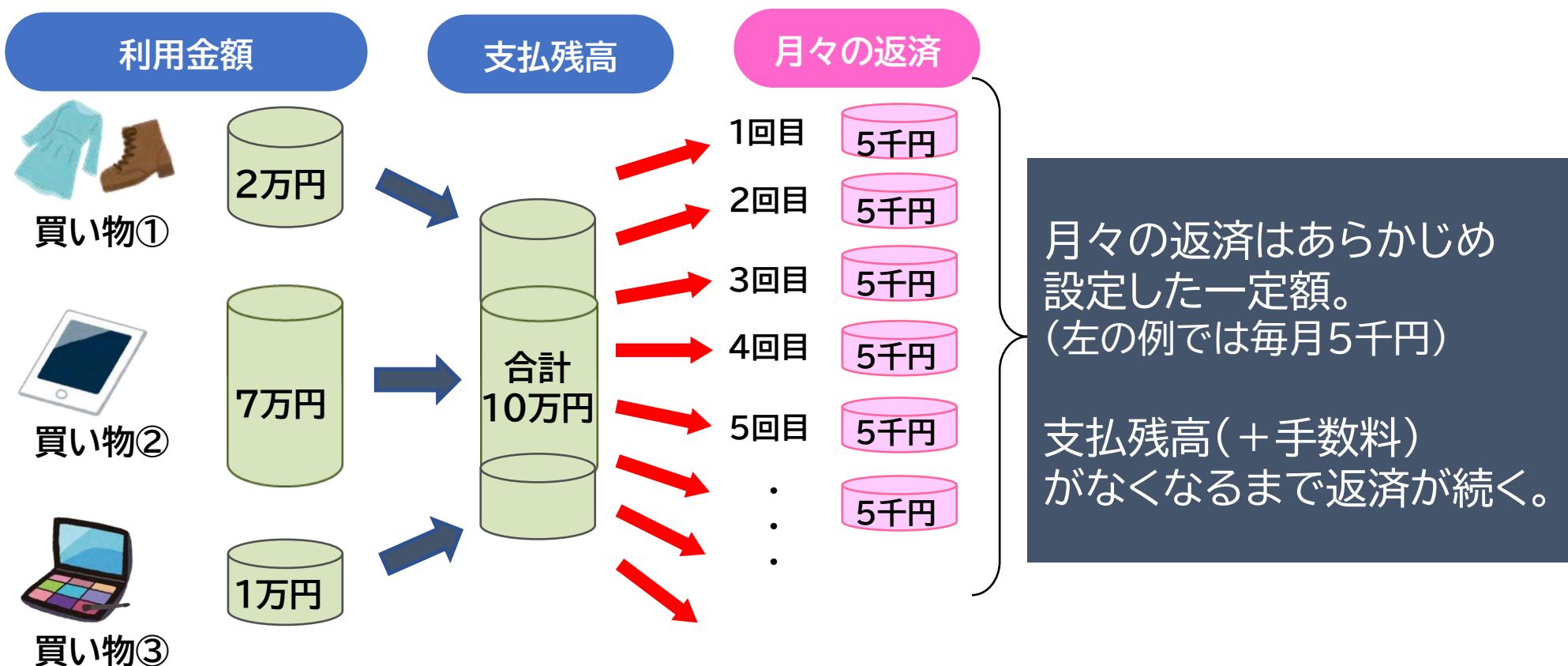


手数料のめやす

1~2回	分割払い
なし	11~15%
リボ払い	キャッシング
12~18%	15~18%

クレジットカードを利用するには、カード会社による審査があります。カードの利用は原則本人のみです。

- リボ払いとは、カードの利用金額や利用回数にかかわらず、
『あらかじめ設定した一定の金額を月々返済する方式』です。
- 家計管理がしやすい一方、返済期間や総返済額に注意が必要です。



クイズ



友達と海外旅行に行くので、年利(年間の金利)18%のリボ払い30万円のツアー代金を支払いました。毎月5,000円ずつ返済する場合、返済には何年かかり、総額いくら返すことになるでしょうか？

- ① 約6年、約35万円
- ② 約9年、約48万円
- ③ 約13年、約77万円



<ヒント>

最初の月、返済額5,000円のうち手数料の金額はどれくらいでしょうか？
（「30万円×年利18%」をもとに計算してみましょう。）

答え

③

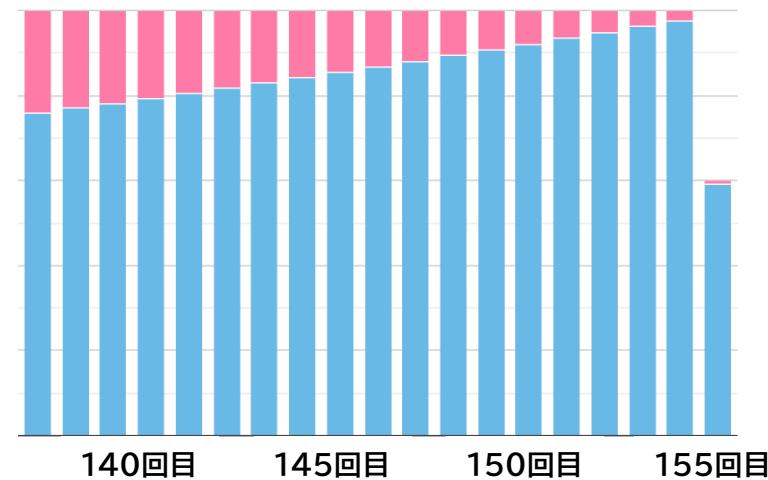
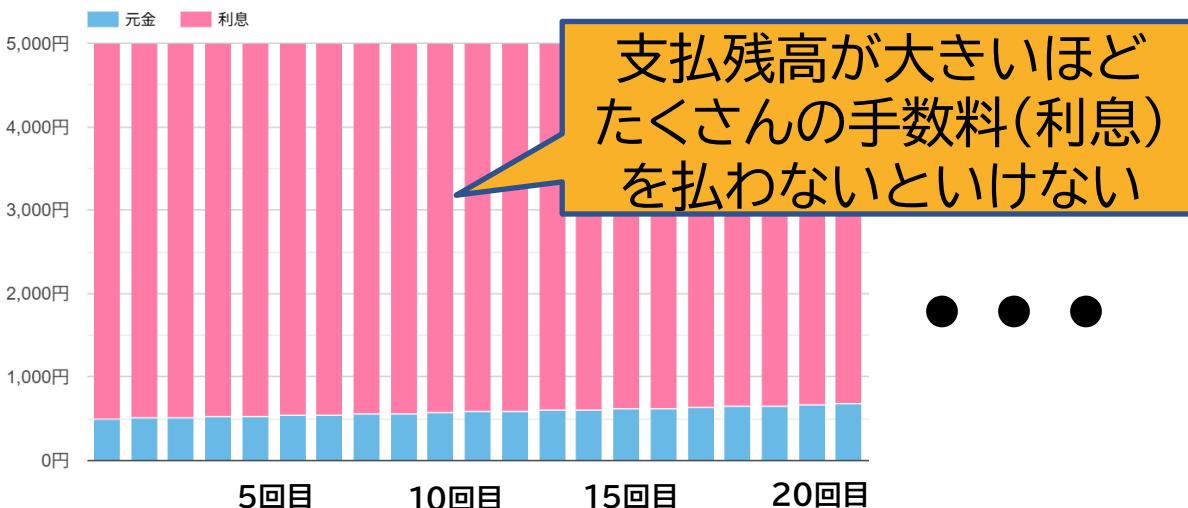
手数料が毎月発生するため、30万円の元本に対して、
返済期間は約13年、返済額は約77万円にもなってしまいます。
クレジットカードは、返済方法による総返済額の違いにも注意して
計画的に利用することが重要です。



<考え方>

- ・30万円の18%は54,000円(手数料)です。
- ・最初の月の手数料は $30\text{万円} \times 18\% \div 12\text{カ月} = 4,500\text{円}$ 。
月の返済額(5,000円)－手数料(4,500円)=500円が元本の30万円から減ります。
- ⇒概算ですが、1年かけて60,000円返しても(毎月5,000円×12カ月)、30万円の元本から6,000円しか減りません。

- 30万円をリボ払い(年利18%)、毎月5千円で返済すると、返済期間約13年(155回)、総返済額772,996円になります。



※「返済手段」については「定額元利返済(金額指定)」を選択

利用する前に日々の返済額、返済期間、総返済額等を確認して、「**返せる範囲**」に収まっていることを確認しましょう。

日本貸金業協会 返済シミュレーション

検索

○ クレジットカードは非常に便利ですが、利用するときは次のこと気につけましょう。

- 目の前のお金が減らないので、**使い過ぎる心配**がある。
- カードの紛失・盗難などで悪用される危険がある。
- 支払い遅延などで、「**信用度**」がさがると、ローンなどが組めなくなる。
- 分割払い(一般的に3回払い以上)・リボ払いは、借入金利にあたる**手数料**がかかる。



リボ払いで気を付けること

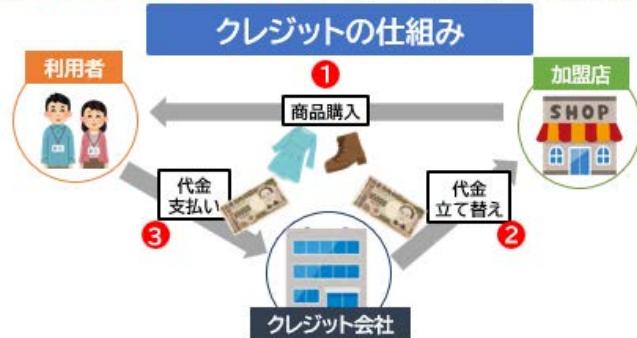
- 每月の返済額が少ないと支払残高が減らず、**長期間支払い**を続けることで**総支払額**が多くなる可能性がある。
- 現在の利用残高を確認せず、完済前にリボ払いを重ねてしまい、**気づかぬうちに多額の手数料**を支払うことになる可能性がある。
- 最近では、「フレックス払い」「つけ払い」「定額払い」等、**「リボ払いの名前を変えているケース」**もよく見られる。「リボ払い」の名前だけ覚えるのではなく、**どのような仕組みであるか**を理解しておく。

3.ローンやクレジットの特色と注意点を説明してみよう。

J-FLEC ③j クレジットとは

30

- クレジットとは、『商品などを買った時点では代金を支払わず、後から支払う約束』のことです。
- 大半は『クレジットカード』での利用になります。



ローンとクレジットは、仕組みは違いますが、どちらも『後で返済(支払い)が必要な借り入れ(借金)』です。



4. 今日の学習で学んだことをまとめよう。